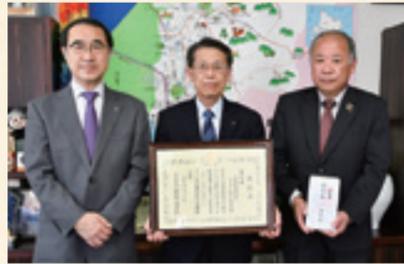




町が建設会社2社に善行賞を贈る



町は、企業版ふるさと納税を活用して地域振興などに寄与した建設会社2社に善行賞を贈りました。

贈呈したのは、岩倉建設株式会社と菱中建設株式会社。両社は、いずれも「住みたい・訪れたい空間づくり事業」に役立てて欲しいと申し出て、岩倉建設株式会社が500万円、菱中建設株式会社が150万円を寄付しました。

4月25日には岩倉建設株式会社代表取締役の鈴木泰至さんへ、5月1日には菱中建設株式会社代表取締役社長の山崎啓二さんにそれぞれ賞状と記念品を贈り、宮坂町長が謝意を伝えました。



(写真上) 善行賞を受けた岩倉建設株式会社代表取締役の鈴木さん(中央)
(写真下) 善行賞を受けた菱中建設株式会社代表取締役社長の山崎さん(中央)

町と室蘭工業大学が包括連携協定を締結



包括連携協定書に署名した宮坂町長と空閑学長

町と室蘭工業大学は5月8日、共にまちづくりに取り組むパートナーとして協力を図るための包括連携協定を締結しました。

協定は、①まちづくり・環境・防災に関する事項②地域振興に関する事項③人材育成に関する事項を柱としていて、相互に合意した事業について協働で取り組みます。

協定締結は、室蘭工業大学で行われ、宮坂町長と空閑良壽学長が協定書に署名しました。

宮坂町長は「締結を一つの契機として、地域創生に結びつきたいと思っています。新しい技術を活用し、町の振興や町民の皆さんの生活の質や生活空間の向上を図っていききたい」と期待。空閑学長は「大学と厚真町が持つ資源を有効に活用して、大学として非常に意味のある地域の課題解決と活性化、広い視点での人材育成に寄与したい」と話しました。

116人が春の全国交通安全運動でセーフティコール

春の全国交通安全運動初日の5月11日、町交通安全推進委員会の街頭啓発が厚真市街地で行われました。

運動の重点目標は、子どもをはじめとする歩行者の安全確保、横断歩行者事故等の防止と安全運転意識の向上、自転車のヘルメット着用と交通ルールの遵守の徹底。町内の事業所や厚真高校生など116人が参加し、交通安全ののぼり旗や手作りのイラストパネルを掲げて、道行くドライバーに安全運転を呼びかけました。



青空の下で旗やイラストパネルで交通安全を呼びかける参加者たち

木質バイオマス発電運転を開始



コンテナに納められた木質バイオマス発電設備

木質バイオマスを使ってエネルギー事業を行う士別市の株式会社sonraku(ソラク)は4月26日、幌里地区で「sonraku厚真バイオマス発電所」の運転を開始しました。

フィンランド製の分散型熱供給システム(CHP)は、40フィートコンテナに納まる大きさで、木材を細かく裁断したウッドチップを燃焼させ、発電と同時に熱を供給します。機械1台あたりの発電は40kwほどで、北海道電力ネットワークに売電します。効率的な燃料の流通や二酸化炭素の削減、地域経済への寄与などが期待されます。

同社の井筒耕平代表取締役社長は「年間を通じて、熱を供給することが課題です。町内の林業関係者とも交流し、将来は地元からの木材調達も行いたい」と説明。宮坂町長は「今後、さまざまな可能性を秘めた事業だと思えます」と期待しました。

医師の畑山由起子さんに感謝状贈呈

25年にわたり厚真町乳幼児健康診査担当医として尽力された畑山由起子さんに4月26日、町が感謝状を贈りました。

畑山さんは、小児科医として大学病院での勤務を経て安平町で医療法人社団畑山医院の理事長に就任。平成9年から、厚真町乳幼児健康診査担当医として、これまでに延べ約4千人以上の乳幼児の健康管理を続けて保健医療環境の改善に尽力されました。

畑山さんは、町長と思い出話に会話を弾ませながら「良き後継者もできました。お世話になりました」と話すと、宮坂町長は「長い間、大変お世話になり有難うございました」と感謝しました。



感謝状を手にする畑山さん

大沼野営場オープン



オープン初日に桜が咲き始めた大沼野営場

木々に囲まれ水辺に癒されるロケーションが人気の大沼野営場が、大型連休前日の4月28日にオープンし、平日にもかかわらず待ちわびたキャンパーがアウトドアライフを楽しみました。

今年から、指定管理者制度を導入して株式会社ダイナックスが管理・運営し、管理棟内でバーベキュー用の肉やまきを販売しているほか、大型のスチール製ごみ箱も設置しました。

初日は、午後から10組ほどが訪れて思い思いの場所にテントを設営。火起こしして、バーベキューなどに舌鼓を打ちました。

今シーズンは、8月末まで野営場を開放する予定で、その後は場内の環境を整備する予定です。